Warabeya Nichiyo HLDGS.

2023年2月期
（2022年3月1日～2023年2月28日）

決 算 説 明 会

2023年4月14日

わらべや日洋ホールディングス株式会社
東証プライム： 2918

グループ理念

私たちは「安全・安心」と「価値ある商品・サービス」の提供を通じて、
お客様の健康で豊かな食生活に貢献します。

経営理念

お客様のニーズを追求し、変革を推進します。

コンプライアンスを実践し、透明性の高い経営を行い、
社会から信頼される企業を目指します。

人を育て、働きがいのある、環境にやさしい企業を目指します。

■ 2023年2月期 通期業績

■ 2024年2月期 業績予想

■ 持続的成長に向けた取り組み

連結業績

- 営業利益は過去最高を更新
- 収益認識の影響を除いた売上高は前期比2.2%増

（単位：百万円）	2022年2月期 実績	2023年2月期 予想	2023年2月期 実績	前期比	予想比
売上高	192,326 100.0%	195,000 100.0%	194,416 100.0%	+2,090 +1.1%	△583 △0.3%
営業利益	4,441 2.3%	4,800 2.5%	4,985 2.6%	+544 +12.3%	+185 +3.9%
経常利益	5,035 2.6%	4,600 2.4%	4,628 2.4%	△406 △8.1%	+28 +0.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,264 1.7%	2,600 1.3%	2,810 1.4%	△453 △13.9%	+210 +8.1%
EPS(円)	186.98	148.88	160.94	△26.04	+12.06
ROE(%)	7.1	5.3	5.7	△1.4pt	+0.4pt

＊ 売上高～当期純利益　上段：金額　/ 下段：売上比、増減率
＊ 予想　2022年10月7日発表の予想数値

事業セグメント｜前期比

■ 食品関連が業績をけん引

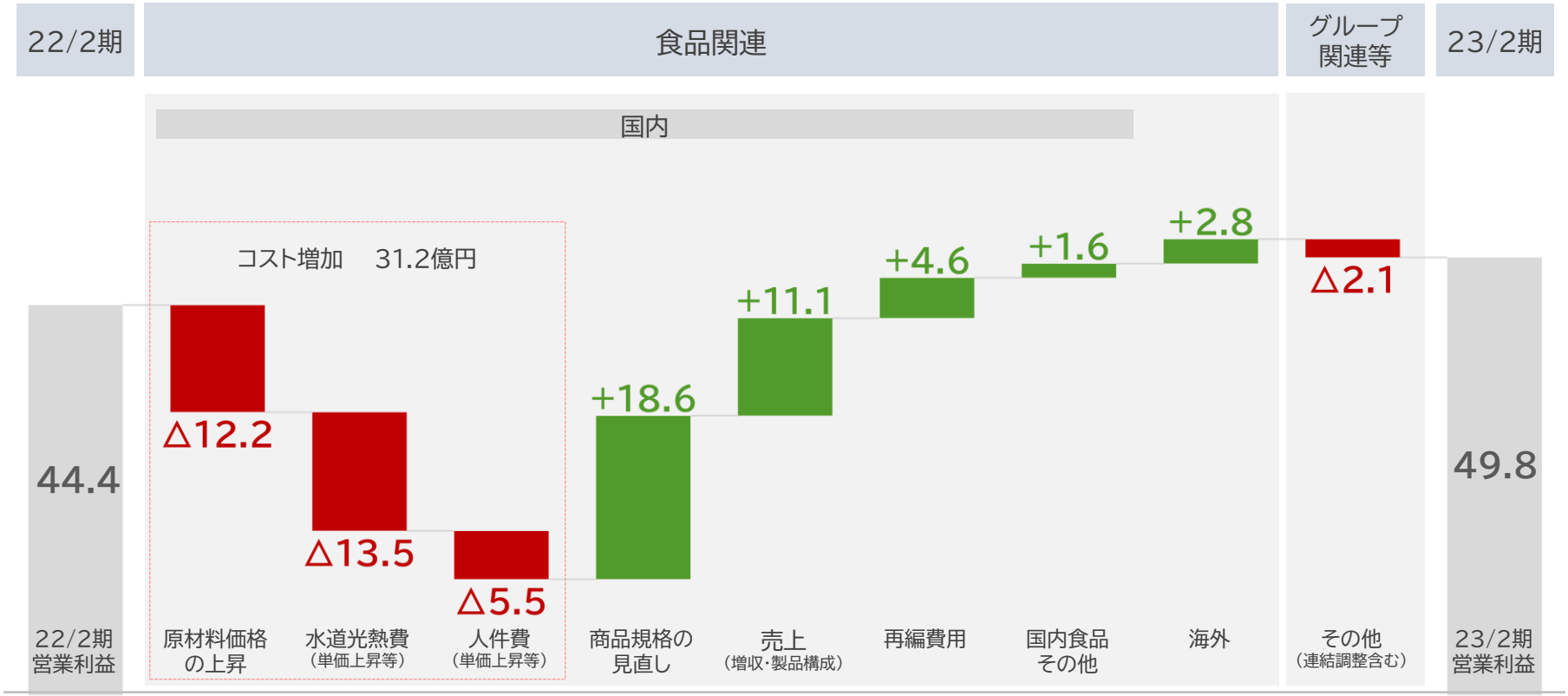
（単位:百万円）		2022年2月期	2023年2月期	前期比 増減額	前期比 増減率	増減の主な要因
食品関連	売上高	162,502	169,552	+7,050	+4.3%	売上 【国内】1,574億円（前期比+43億円） 新型コロナによる悪化影響からの回復 好調商品：おにぎり、和菓子 【海外】121億円（前期比＋27億円） 現地での売上増加、為替レート 利益 【国内】+4.7億円 【海外】+2.8億円
	営業利益	4,289	5,042	+753	+17.6%	
食材関連	売上高	13,393	11,394	△1,998	△14.9%	売上 新収益認識基準の適用（影響額 △19.4億円） 利益 仕入価格の上昇
	営業利益	271	87	△183	△67.7%	
物流関連	売上高	13,260	12,962	△297	△2.2%	売上 不採算事業所の閉鎖 利益 採算の改善
	営業利益	615	643	27	+4.5%	
食品製造設備	売上高	3,132	507	△2,625	△83.8%	売上 利益 取扱高の減少
	営業利益	85	△76	△161	－	
その他	売上高	38	－	△38	－	
	営業利益	△138	－	+138	－	
調整額	営業利益	△681	△711	△29	－	
合計	売上高	192,326	194,416	+2,090	+1.1%	
	営業利益	4,441	4,985	+544	+12.3%	

＊ 為替レート(1＄) 22/2期 115.0円　23/2期 132.7円

営業利益｜前期比

■ コストの大幅増加を商品規格の見直し、売上要因で吸収

（単位：億円）



	22/2期営業利益	原材料価格の上昇	水道光熱費（単価上昇等）	人件費（単価上昇等）	商品規格の見直し	売上（増収・製品構成）	再編費用	国内食品その他	海外	その他（連結調整含む）	23/2期営業利益
上期	31.9	△4.0	△6.4	△1.8	+7.0	+5.9	△0.2	△0.3	+2.1	△0.5	33.7
下期	12.4	△8.2	△7.1	△3.7	+11.6	+5.2	+4.9	+1.9	+0.7	△1.6	16.0
通期	44.4	△12.2	△13.5	△5.5	+18.6	+11.1	+4.6	+1.6	+2.8	△2.1	49.8

事業セグメント｜予想比

国内食品関連は売上高が予想未達も営業利益は予想達成

事業セグメント別予想との差異　（億円）

売上高	△5.8
食品関連	△7.6
国内	△8.3
海外	+0.7
食材関連	+2.0
物流関連	△1.2
食品製造設備	+1.0

営業利益	+1.8
食品関連	+1.3
国内	+0.6
（主な内訳）・商品規格の見直し	+2.6
・社員の処遇改善	△1.7
海外	+0.7
食材関連	+0.0
物流関連	+0.2
食品製造設備	+0.3

＊ 予想　2022年10月7日発表の予想数値

営業外損益・特別損益

（単位：百万円、%）	2022年2月期		2023年2月期		前期比増減	
	金額	売上比	金額	売上比	金額	増減率
営業利益	4,441	2.3	4,985	2.6	+544	+12.3
営業外収益	1,122	0.6	671	0.3	△451	△40.2
営業外費用	529	0.3	1,027	0.5	+498	+94.3
経常利益	5,035	2.6	4,628	2.4	△406	△8.1
特別利益	－	－	500	0.3	+500	－
特別損失	303	0.2	938	0.5	+634	+208.7
税金等調整前当期純利益	4,731	2.5	4,190	2.2	△540	△11.4
法人税等合計	1,329	0.7	1,251	0.6	△78	△5.9
非支配株主に帰属する当期純利益	137	0.1	128	0.1	△8	△6.3
親会社株主に帰属する当期純利益	3,264	1.7	2,810	1.4	△453	△13.9

営業外損益

前期比
△9.5億円

	前期比
前期計上した一時的収入の剥落（コロナ助成金等）	△3.9億円
持分法による投資損益	△4.3億円
その他（支払利息の増加等）	△1.3億円

特別損益

前期比
△1.3億円

		22/2期	23/2期
特別利益	事業譲渡益（新潟工場）	－	5.0億円
特別損失	減損損失	3.0億円	9.3億円

（内訳） 22/2期 岩手工場 3.0億円
23/2期 日洋フレッシュ 4.1億円
岩手工場 2.8億円、新潟工場土地 1.1億円、他工場 1.2億円

貸借対照表、キャッシュフロー計算書

■ 固定資産・有利子負債の増加は米国投資が主因

連結貸借対照表

（単位：百万円）	22年2月末	23年2月末	増減		22年2月末	23年2月末	増減
流動資産	29,467	32,344	+2,877	流動負債	21,539	22,079	+540
固定資産	52,716	60,339	+7,622	固定負債	12,744	19,074	+6,330
（有形固定資産）	44,376	51,310	+6,934	（長・短有利子負債合計）	9,315	15,154	+5,839
（無形固定資産）	445	314	△130	負債合計	34,283	41,154	+6,871
（投資その他）	7,895	8,714	+819	（利益剰余金）	31,253	33,183	+1,929
				純資産合計	47,901	51,529	+3,628
資産合計	82,184	92,684	+10,499	負債・純資産合計	82,184	92,684	+10,499

連結キャッシュフロー計算書

（単位：百万円）	2023年2月期
営業活動によるキャッシュ・フロー	7,433
投資活動によるキャッシュ・フロー	△7,541
財務活動によるキャッシュ・フロー	692
現金及び現金同等物に係る換算差額	933
現金及び現金同等物の期首残高	9,671
現金及び現金同等物の期末残高	11,189

■ 2023年2月期 通期業績

■ 2024年2月期 業績予想

■ 持続的成長に向けた取り組み

連結業績予想｜通期

- 国内の販売回復とバージニア新工場が売上増に寄与
- 営業利益・経常利益は過去最高を見込む

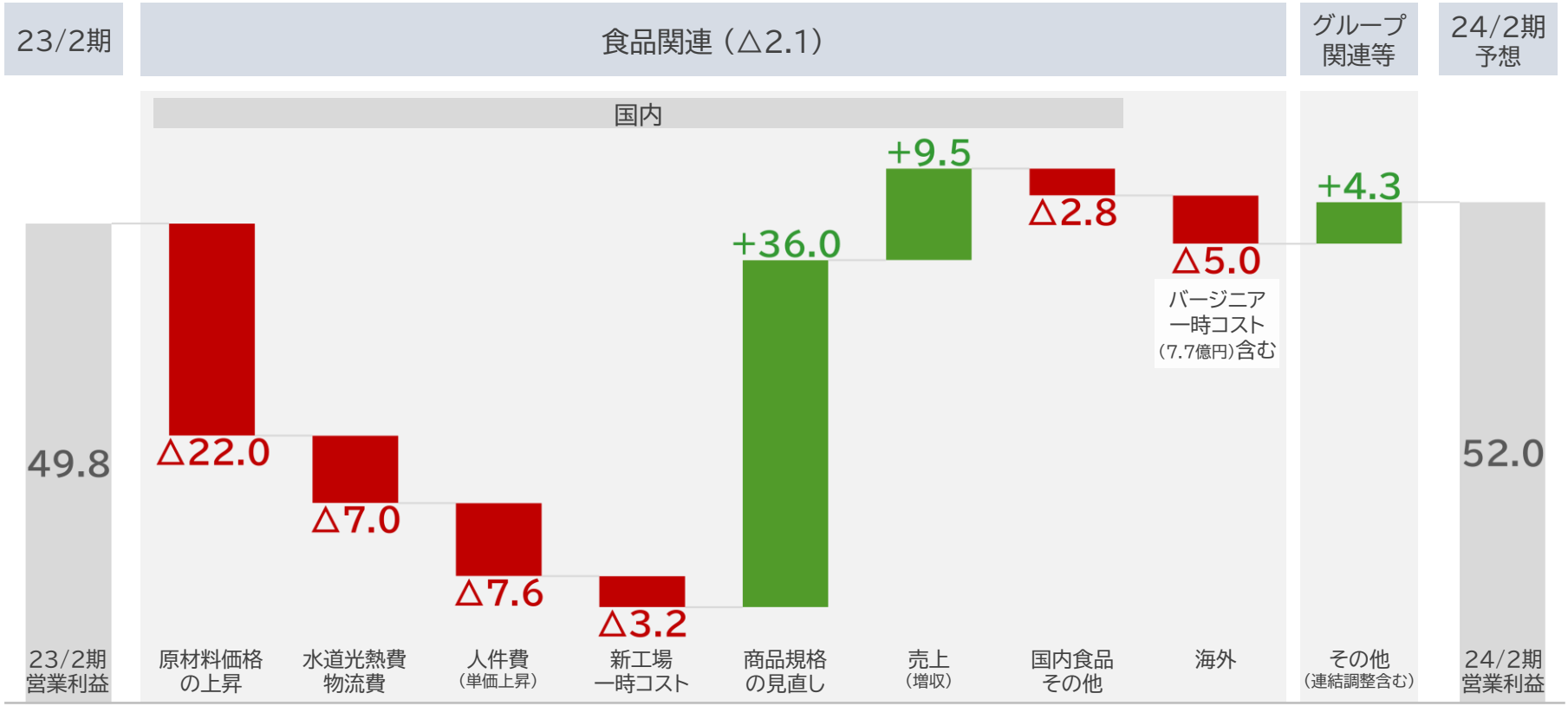
（単位：百万円）	2023年2月期 実績	2024年2月期 予想	前期比
売上高	194,416 100.0%	204,000 100.0%	+9,583 +4.9%
営業利益	4,985 2.6%	5,200 2.5%	+214 +4.3%
経常利益	4,628 2.4%	5,550 2.7%	+921 +19.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,810 1.4%	3,200 1.6%	+389 +13.9%
EPS(円)	160.94	183.23	+22.29

＊ 実績、予想　上段：金額 / 下段：売上比　　前期比　上段：増減額 / 下段：増減率

営業利益予想｜増減分解

- 原材料価格の上昇を商品規格の見直しで吸収
- 国内外における新工場立上げに伴う一時コスト

（単位：億円）



■ 2023年2月期 通期業績

■ 2024年2月期 業績予想

■ 持続的成長に向けた取り組み

中期の課題

利益の改善、消費者需要の追求

事業拡大

収益性向上

サステナビリティ経営基盤の構築

【国内食品】利益の改善

生産体制の最適化

・工場間での生産品目の見直しやライン移管による生産の効率化

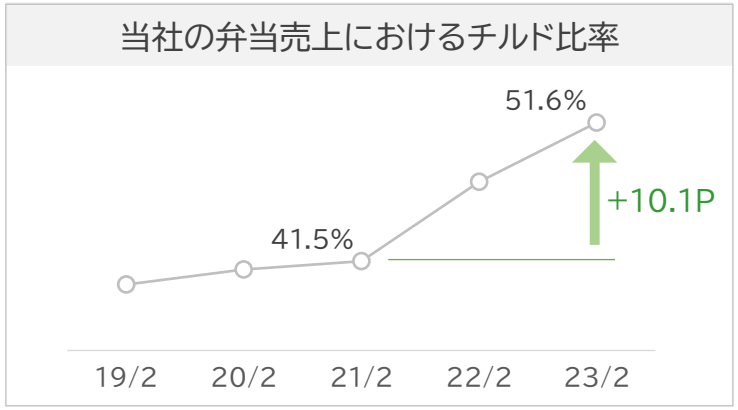
・新設工場を活用した首都圏を中心とする生産ラインの整備の加速

新たな需要

決定している取り組み

・東京工場へのサラダラインの新設

・東京工場から新入間工場へのパスタラインの移管



【国内食品】消費者需要の追求

商品開発力の強化で多様化するニーズに対応

・嗜好の変化にあわせた高付加価値商品の開発

・品揃え（製造可能商品）の幅を広げることで当社ならではの価値を提供

おいしい・本格的

【コラボレーション】
荻窪トマト監修
スパイスビーフカレー

【本場の味】
サーモンポキ丼

【独自の製造設備の活用】
鶏ガラ出汁の
特製天津飯

健康 / サステナブル

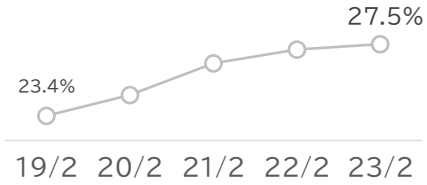
【ワンハンドサラダ】
デリラップ
シーザーサラダ

【大豆ミート】
旨辛麻婆豆腐丼

【認証原材料】
手巻おにぎり
辛子明太子

売上ポートフォリオ

当社の売上に占める米飯以外の商品



Warabeya Delica

2024年3月、新たに焼きたてパンや調理麺の製造を開始。

新入間工場（新設/仮称）

納品 約1,500店舗

北関東工場（譲受）

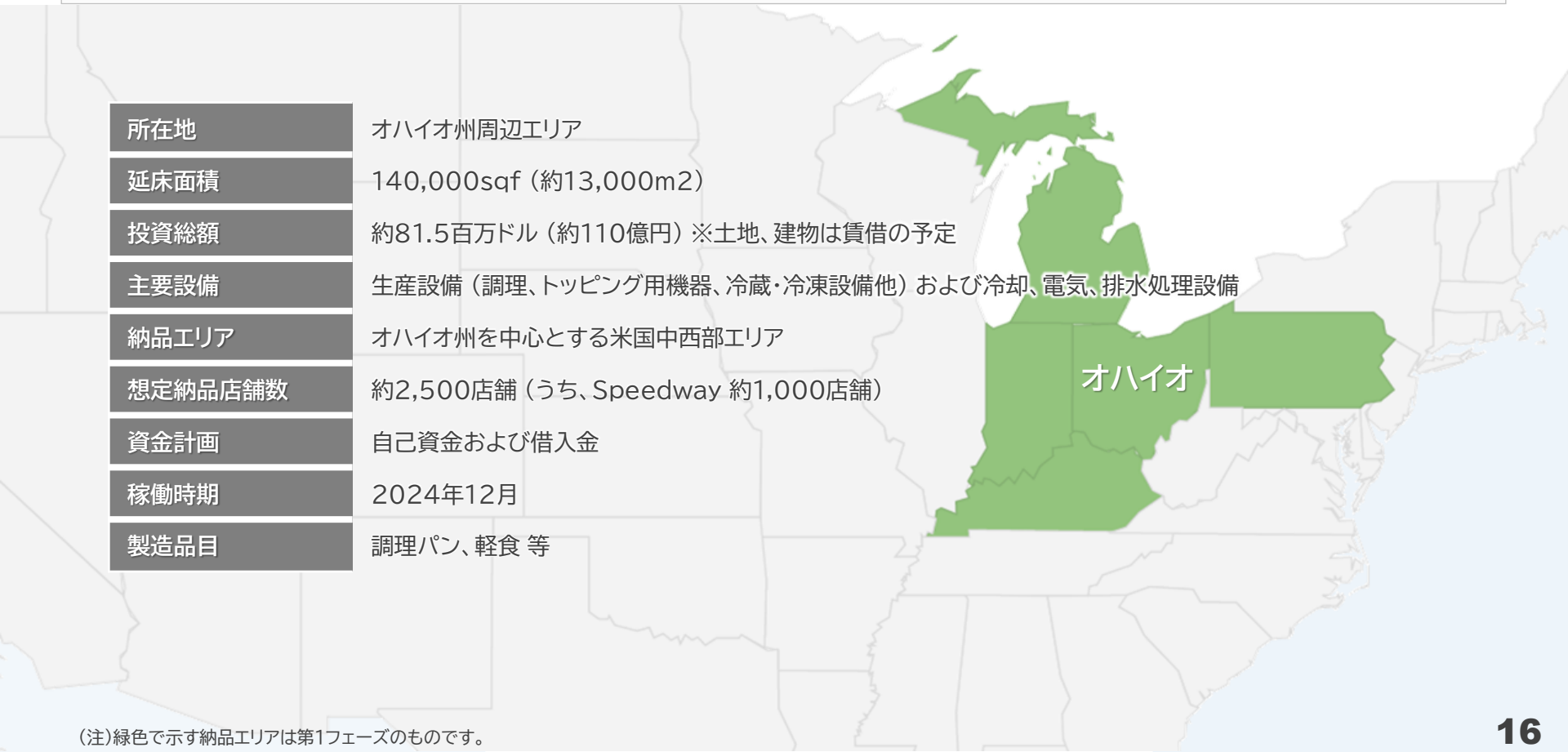
納品 約1,000店舗

【海外食品】オハイオへの進出

米国本土で第3の工場が2024年に稼働

- 第1フェーズでフレッシュフード、第2フェーズでは冷凍食品の供給を開始
- フル稼働時の売上規模はバージニア工場を上回る

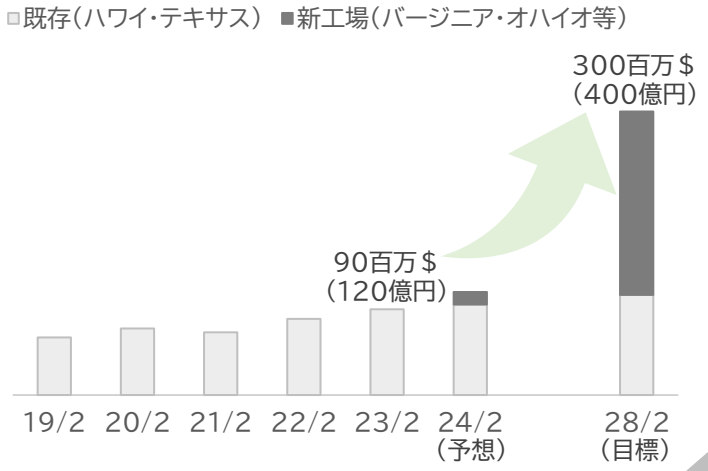
所在地	オハイオ州周辺エリア
延床面積	140,000sqf（約13,000m2）
投資総額	約81.5百万ドル（約110億円）※土地、建物は賃借の予定
主要設備	生産設備（調理、トッピング用機器、冷蔵・冷凍設備他）および冷却、電気、排水処理設備
納品エリア	オハイオ州を中心とする米国中西部エリア
想定納品店舗数	約2,500店舗（うち、Speedway 約1,000店舗）
資金計画	自己資金および借入金
稼働時期	2024年12月
製造品目	調理パン、軽食 等



（注）緑色で示す納品エリアは第1フェーズのものです。

【海外食品】米国を中心とした事業拡大

米国売上高



2024 オハイオで工場が稼働（12月予定）

2023 バージニアで工場が稼働（8月予定）

2017 米国本土（テキサス）でセブン-イレブン向け事業を開始

2012 中国でセブン-イレブン向け事業を開始

1987 ハワイでセブン-イレブン向け事業を開始

1982 海外進出（ハワイ）

バージニアの商品開発

地域の味の再現

テキサスではできなかった加熱調理商品の開発に注力。地域に馴染み深いスパイスを使い、慣れ親しんだ味付けで仕上げる。

＊23/2～28/2における（想定）為替レート（1＄） 132.7円

【グループ関連】収益性の向上

選択と集中による経営資源の投下

・市場ニーズを踏まえた既存事業領域の拡大と深耕

・将来を見据えた新たな事業の開拓

食材関連

（1）調達力・購買力の強化

・売上構成の高い、鮭鱒、魚卵、果物の調達への注力

・加工生産者との連携強化で調達の安定性を高める

（2）海外での食材加工事業の開始

物流関連

（1）倉庫保管ニーズへの対応

・冷蔵/冷凍倉庫の新設

（2）EC配送・倉庫業務の新規受託

（3）2024年問題への対応

食品製造設備関連

業績回復の見通しが不透明で、総合的に勘案した結果、
全事業から撤退を決定
事業撤退完了日：2024年2月29日

単位：百万円	21/2期	22/2期	23/2期
売上高	1, 473	3,132	507
営業利益	△12	85	△76

新たな中期経営計画

5カ年で、営業利益の倍増を目指す

・5カ年中期経営計画を策定（2024年2月期～2028年2月期）

・ローリング式（3年）から変更

	23年2月期	24年2月期（予想）	28年2月期（目標）	5カ年増減
売上高	1,944億円	2,040億円	2,500億円	+556億円
営業利益	49億円	52億円	100億円	+51億円
営業利益率	2.6 %	2.5 %	4.0 %	+1.4%pt
当期純利益	28億円	32億円	62億円	+34億円
ROE	5.7 %	6.2 %	9.8 %	+4.1%pt

5カ年累計	設備投資	600億円	減価償却費	380億円

＊ 中計期間における想定為替レート（1＄） 132.7円

中計 セグメント

海外食品関連事業の飛躍

・国内外の食品関連が売上増をけん引

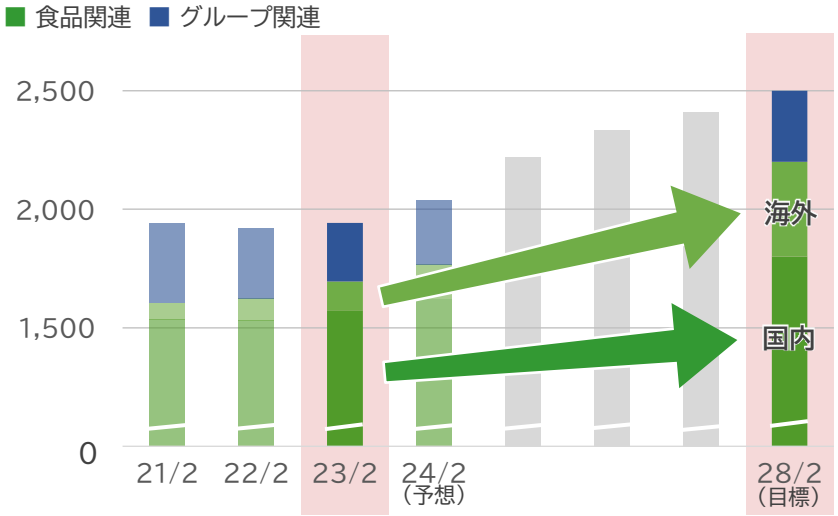
・中計最終年度は海外食品関連が営業利益の3分の1を占める

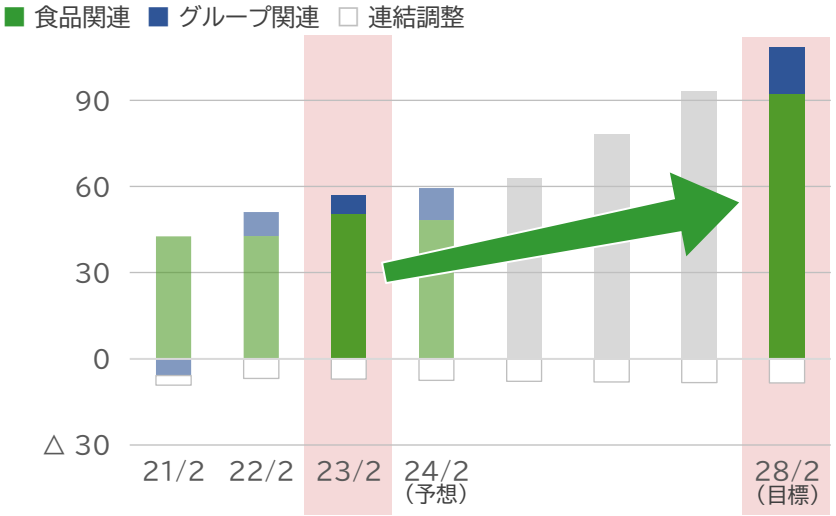
売上高 （億円）

	23/2期	28/2期(目標)	増減
食品関連	1,695	2,200	+505
国内	1,574	1,800	+226
海外	121	400	+279
グループ関連	248	300	+52

営業利益 （億円）

	23/2期	28/2期(目標)	増減
食品関連	50	92	＋42
グループ関連	6	16	＋10
連結調整	△7	△8	△1





＊ 中計期間における想定為替レート(1＄) 132.7円

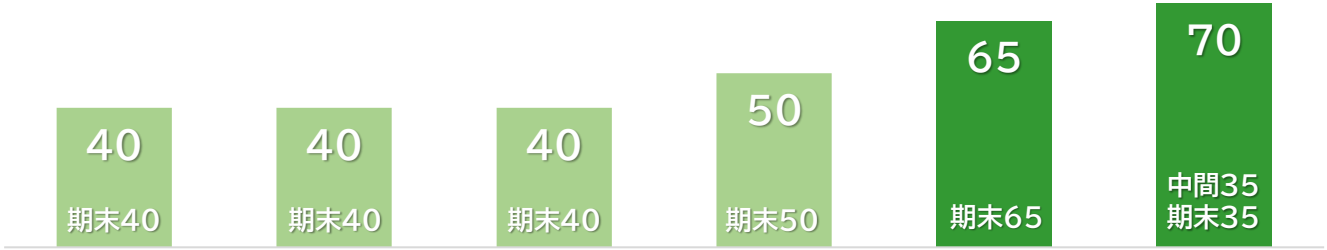
株主還元

配当方針の見直し

連結業績や今後の事業拡大投資のための内部留保などを勘案しつつ、連結配当性向 40%をめどに安定的・継続的に配当を実施する。

従来： 連結業績や今後の事業拡大投資のための内部留保などを勘案しつつ、連結配当性向 25%をめどに配当を実施する。

配当金



年間配当金（1株あたり、円）	19/2	20/2	21/2	22/2	23/2（予定）	24/2（予想）
配当性向（%）	115.0	69.5	102.5	26.7	40.4	38.2
配当総額（百万円）	704	704	704	880	1,144	1,232
EPS（円）	34.78	57.55	39.04	186.98	160.94	183.23

サステナビリティ

わらべや日洋グループは、地球のめぐみを大切にし
世界の食文化をリードすることで、食の喜びを安定的に提供し、
持続可能な社会の実現に貢献します

マテリアリティ	わらべや日洋グループの課題
循環型社会への貢献	脱炭素を推進し、環境負荷の低減を図り、循環型社会の実現を目指す
食の喜びの提供	お客様の安全・安心で多様な食生活に貢献する
持続可能なサプライチェーンの実現	気候変動や社会情勢変化に対応した安定的な食料の調達・供給
働きがい、人権と多様性の尊重	全ての人が活躍できる仕組みの確立
強固な事業基盤の確立	事業環境の変化に合わせた柔軟かつ迅速な対応力の強化

循環型社会

- CO_2排出量
- 産業廃棄物排出量

50%減

*2030年目標（2018年対比）

安全・安心

- 重大品質事故　ゼロ
- 健康を考慮した商品の開発

サプライチェーン

- 認証取得水産原料・GAP原料の調達推進
- 地産地消原料の調達推進

人材

- 女性活躍の推進
- 人材投資
- ワークライフバランス

本資料には、当社の本資料作成時点における計画、見通し、経営戦略および経営方針に基づいた「将来予測に関する記載」が含まれています。

この「将来予測に関する記載」には本資料発表時点までに入手可能な情報に基づいた当社の経営判断や前提が述べられており、諸与件の変化により実際の業績が「将来予測に関する記載」とは異なる可能性があります。

したがって、本資料における業績予想などの「将来予測に関する記載」が将来にわたって正確であることを保証するものではありません。

Warabeya Nichiyo HLDGS.

わらべや日洋ホールディングス株式会社

お問い合わせ先

わらべや日洋ホールディングス株式会社
経営企画部
E-Mail: keiei-kikaku@warabeya.co.jp
Tel　: 03-5363-7194